

報 会

静岡県公立高等学校PTA会長連絡協議会

も く じ

本会の運営方針	1頁
竹山知事の祝辞	1頁
福島大会ひらく	1頁
昭和42年度決算、昭和43年度予算	2頁
ベルマーク運動	3頁
思い出	3頁
社会を明るくする運動	4頁

あいにくの豪雨の中、多忙を極めている竹山知事だったが、公立高校のPTA会長の総会というので、時間一ぱいにかけて来る。

冒頭祝辞を述べ、続いて最近の米国の書「紀元二千年」を読んで、と前おきして、日本人の所得は、世界八番目だが、やがて米国に追いつき、追い越すかも知れないと興味深い話し振り。

これには三つの理由がある——その一つは日本人の勤勉性、何と言っても人間性だ、米国民は大いに生産をあげたが、レジャーを楽しむことになり、それが分に過ぎてきた、物質主義的なもの考え方だけでは、将来は解決されない。人間の精神が作るの

総会における 知事の祝辞から

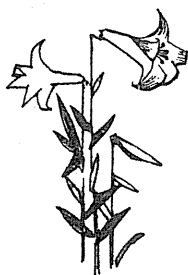
〔六月十九日 婦人会館〕

だと説く。

世界に人口の集中地帯が三つできるが、米国に二、日本の太平洋岸に一、将来へ夢を呼んでいると。——(略)

「高校整備については、県の財政で消化していきたい。県として能率化を進めていくが、高校としても、後期中等教育の充実進展を期待する。」と結んだ。

(文責は事務局長)



第十八回全国高等学校PTA協議会福島大会が八月二十一日から二日間福島市で開催される。

大会は高校教育の振興、青少年の健全育成、高校PTA活動の推進等について意見の交換が行なわれるが、二十一日午後の分科会で、本県代表は東海四県を代表して「父兄の教育費負担の軽減について」と題し、幾つかの事例をあげて提案説明する予定である。

なお、これに先立ち、午前の大会では、永年高校PTAのために功労の多かった方々が、表彰されることになっている。



本会の運営方針

本年は高校教育ならびに高校PTA発足二十周年に当り、後期中等教育を充実するための施策が強くなり出されようとしている。

本会としても、後期中等教育に対する理解と認識を深め、教育の正常化等当面する諸問題の把握と、その解決を図るため、相連携して努力し、本県高校教育の充実振興に寄与する。

福島大会ひらく

八月二十一日

～福島市公会堂で～

昭和43年度静岡県公立高等学校PTA会長連絡会予算書

歳入の部 歳入の部 1,214,985円 歳出の部 1,214,985円 差引残高 0円

項 目	前年度予算	本年度予算	比較増減	摘 要
1. 負担金	1,080,120	1,040,000	△ 40,120	学校割2000円×85=170000 生徒割10×87000=870000
2. 補助金	100,000	100,000	0	
3. 前年度繰越金	43,308	69,859	26,551	
4. 雑収入	672	5,126	4,454	銀行利子
計	1,224,100	1,214,985	△ 9,115	

歳出の部

項 目	前年度予算	本年度予算	比較増減	摘 要
1. 会議費	115,000	110,000	△ 5,000	会場使用料看板代資料代
(1) 総会	20,000	20,000	0	理事会(4回)(旅ヒ・食糧ヒ・会場ヒ)
(2) 理事会	95,000	90,000	△ 5,000	
2. 事業費	545,000	490,000	△ 55,000	
(1) 研修費	225,000	175,000	△ 50,000	研修会 80,000円 県外視察 20,000円 学校視察 30,000円
(2) 研修会参加費	145,000	140,000	△ 5,000	東海ブロック参加ヒ(7人35,000円) 高P大会(福島) 56,000円 旅ヒ49,000円
(3) 地区別研修会費	50,000	50,000	0	10地区分
(4) 研究調査費	20,000	20,000	0	調査票代93校分 調査用件ヒ等
(5) 研究会懇談会	15,000	15,000	0	7,500×2回=15,000円
(6) 会報費	90,000	90,000	0	編集ヒ印刷ヒ等(約1,400部)
3. 事務局費	395,950	419,500	23,550	
(1) 事務手当	235,000	243,000	8,000	事務局長168,000円 通勤手当12,000円 補助員4,8000円
(2) 賞与	70,950	81,000	10,050	超勤手当15,000円
(3) 旅費	15,000	20,000	5,000	
(4) 消耗品	25,000	25,500	500	文具ヒ・用紙代
(5) 通信費	50,000	50,000	0	電話料。郵便料
4. 負担金	135,000	150,500	15,500	全国高P負担金 15×87,000=130,500円 大会開催費負担 20,000円
5. 雑費	22,000	36,000	14,000	銭別。その他
6. 予備費	11,150	8,985	△ 2,165	
計	1,224,100	1,214,985	△ 9,115	

昭和43年 6月19日

(承認済)

静岡県公立高等学校PTA会長連絡会

会長 藤森常次郎

昭和42年度静岡県公立高等学校PTA会長連絡会決算書

歳入の部 歳入総額 1,228,404円 歳出総額 1,158,545円 差引残高 69,859円

科 目	決算額	予算額	増 減	備 考
1. 負担金	1,079,970	1,080,120	△ 150	生徒数15名減
2. 補助金	100,000	100,000	0	
3. 前年度繰越金	43,308	43,308	0	
4. 雑収入	5,126	672	4,454	
計	1,228,404	1,224,100	4,304	

歳出の部

科 目	決算額	予算額	増 減	備 考
1. 会議費	101,395	115,000	△ 13,605	
(1) 総会	18,840	20,000	△ 1,160	
(2) 理事会	82,555	95,000	△ 12,445	理事会 4回
2. 事業費	535,960	545,000	△ 9,040	
(1) 研修費	225,000	225,000	0	研修会 3回・学校視察 3回
(2) 研究会等参加費	137,010	145,000	△ 7,990	全国高P大会 東海4県協議会等
(3) 地区別研修会費	50,000	50,000	0	10地区分
(4) 研究調査費	18,950	20,000	△ 1,050	
(5) 研究会懇談会	15,000	15,000	0	
(6) 会報費	90,000	90,000	0	会報 9~12号(4回)
3. 事務局費	373,983	395,950	△ 21,967	
(1) 事務手当	216,270	235,000	△ 18,730	
(2) 賞与	70,950	70,950	0	
(3) 旅費	14,740	15,000	△ 260	
(4) 消耗品	23,603	25,000	△ 1,397	
(5) 通信費	48,420	50,000	△ 1,580	
4. 負担金	135,000	135,000	0	全国高P協負担金
5. 雑費	12,207	22,000	△ 9,793	
6. 予備費	0	11,150	△ 11,150	
計	1,158,545	1,224,100	△ 65,555	

昭和43年 6月19日

(承認済)

静岡県公立高等学校PTA会長連絡会

会長 藤森常次郎

監査 渡辺繁夫 植松義忠 武内藤古

知っていたただきたい ベルマーク運動



総会で議事説明(会長)

六月十九日の総会で会長から、本年度の本会の運営方針や、事業計画について説明されたが、その中に、

一、特殊教育への理解と援助

二、ベルマーク運動の推進

があります。

ベルマークのことはについては、知らない方もあると思いますが、せひとも多くの方々に知っていただいで政協力をおねがいしたいと思ひます。

次に、ルートを図で示すと下のとおりです。

× × ×

本会では、事務局でマークを受けつけ、有効に取り扱ひさせていただいておりま

ご協力ありがとうございます！

早くも届けてくださった
清水西高校生

7月17日

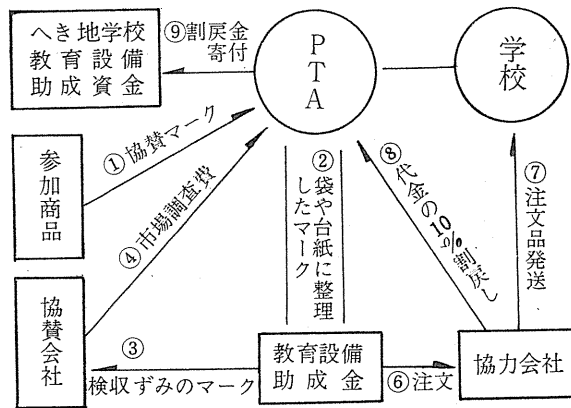
第1陣として、清水西高校から、ベルマークが届けられました。

届けてくださったのは、深沢麗子さんと、石切山美智子さんの二人で、多くのお友だちと、協力して集めてくださったベルマークです。

美しい友情を胸に、ご協力くださった、清水西高校の皆さん、ありがとうございます。

昨年度は、多くの学校の協力で静岡聾学校に電気オルガンが贈られました。

皆さん、本年もよろしくご協力をおねがいします。



想い出

河井惣四郎

昭和三十九年五月から四十三年三月まで四年間、県高P連の事務局長として在任中会員の皆様には公私とも一方ならぬご厚情とご支援たまわり、ありがとうございます。

この間いろいろのなつかしい思い出がありますが、本部よりの要請もありましたので、心にかぶまを少し記させていたいただきました。

一、ベルマーク運動

特殊学校P.T.A.を含む本県高P連においては、特殊学校側の切なるうつつたえと、高P連の善意を体し、県下各校P.T.A.によりかけて、不幸な特殊学校生徒たちの教育設備助成のために、あたたかい援助の手をベルマーク運動によりさしのべた。これが静

商・城北等県下十数校の純真な高校生の間にうるわしい友情の善意が開発され、遂に静岡聾学校へ善意の結晶電気オルガンが寄贈されるに至った。

本県高P連を代表してこの寄贈式に立会った私は、聾学校生徒代表のよくききとれぬ発音の異常な感謝のことばの中にあふれるばかりの感動が波うち、今なお、なつかしくまたふびんに思い出されてならない。

二、最後に思うこと

英知の人志田会長、徳の人藤森会長と二代の会長の下、四年間の事務局長時代、毎年のように高P連のなやみは教育の正常化ということであったように思う。P.T.A.であるからには、次代をになう高校生によりよい育成と国の発展をこいねがうという共通の目的にP側とT側が謙虚に話しあうて何とか提携してゆけぬものか、PAでなく、文字通りP.T.A.としての実質的發展を目ざしてすすむことが本県高P連の今後の課題ではあるまいか。

私は、先般、東京私学会館に開かれた全国高P協の会議に出席し、高校教員のスト問題が各県の高P会長や校長をなやます最大の障害だと沈痛な話題となったとき、隣にいた人が発言し、山梨県では、困難な高校生補導のため、高P、高教組が謙虚に善意を示し協力一体となって当り、全県一致で成果をあげているすばらしい発表をききおどろいたが、出された名刺に山梨県高P連事務局局長兼山梨県高教組副委員長の肩書を見て二度びっくり、形質とも文字通り一体化の実在に、ここに道ありと、その後、東京大会で発言し、山梨県の事例発表ということになり、全国的に注目をあび、大きな反響をよぶに至った次第である。

高P連役員の切なる希望もあり、山梨県高P視察が新年度事業にくみこまれていくようであるが、その結果が今から期待される。

以上思いつくままをのべ、本県高P連の発展を心から祈って筆をおく次第である。

(前事務局長)

高P今後の主な事業

- ◆地区別研修会
- 1 各地区の世話人により開催
 - 2 PTA運営上の問題をはじめ、教育問題を含め、情報交換
 - 3 各地区内高校のPTA会長、副会長会員の参加
 - 4 一地区五千円の補助
 - 5 十二月までに何回か行なう
- ◆会長研修(第二回)
- 1 十一月下旬
 - 2 青少年の補導と、PTA運営について
 - 3 分科会方式による研修
 - 4 県民会館を予定
- ◆会長研修(第三回)
- 1 来年二月中旬
 - 2 教育講演をきいて研修
 - 3 日興会館を予定

ベルマーク運動推進

各高校PTA活動に含めて、ぜひ年間を通して推進していただきたい。

山梨県高P視察

九月中に、昨年の反省に出たこの問題を

解決したい。

各地区から視察代表を出していただきたい。(五校中一校ぐらいの代表を希望)

目的は、山梨県の教育状況を視察しながら、高校Pは、高校Tと如何に協力しているか、どのような活動態勢をとっているかを知ろうとする。

東海四県の高P会議

【七月四日三重県で】

- 各県から出された協議問題は次のとおり。
- 1 校舎の騒音防止対策について (岐阜)
 - 2 日宿直制度の改善について (岐阜)
 - 3 私学に対する補助金の大巾増額を (岐阜)
 - 4 教育費の父兄負担軽減 (静岡、愛知)
 - 5 PTAとしての生徒補導 (愛知)
 - 6 就職試験の時期について (三重)
 - 7 人事院勧告の実施について (三重)
 - 8 入試制度の改善について (三重)



社会を明るくする運動

法務事務次官通達

一、趣 旨

社会を明るくする運動は、すべての国民が、犯罪防止と罪を犯した人たちの厚生について、理解を深め、それぞれの立場において力をあわせ、犯罪のない、明るい社会を築こうとする全国的な運動である。

二、重点目標

家庭、学校、職場、地域社会の人々が、それぞれの立場において、社会環境の浄化と、青少年の非行防止と、非行におち入った青少年の改善更生のために、進んで愛の手をさしのべるよう呼びかけ、犯罪と非行のない、明るい社会をつくるために、国民の善意と力を結集しようとするものである。

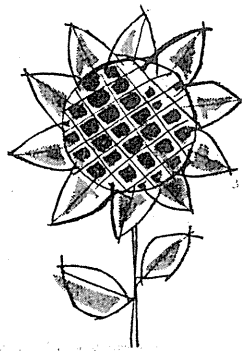
三、期 間

七月～九月

四、運動の方法

- ・非行防止についての講演会、座談会、映画会、研究会等
- ・事業主との協議会、座談会
- ・名土書画展示会
- ・ラジオ、テレビ、有線放送の活用
- ・ポスター、パンフレット、掛幕、立看板

等の広報活動
その他の方法



編集後記

不慣れのため編集に時間がかかり遅延いたしましたことをお詫びいたします。次号は福島大会と視察研修の報告を予定しております。

昭和四十三年七月二十一日印刷
昭和四十三年七月二十八日発行

編集 静岡市追手町五番三号
発行人 県民会館社会教育課内
静岡県公立高等学校
PTA会長連絡会
電話静岡621一六一